

塾生作品の「ドラフト会議」開催



合志市のアニメ・マンガクリエイター育成プロジェクト「熊本こうし響創塾」

▲合志市の都市イメージ「太陽」をテーマに制作したキャラクターを説明する響創塾の塾生（3月30日、同市の熊本高専熊本キャンパス ICT 活用学習センターで）

合志市は、NPO法人グランド12、熊本高等専門学校と連携して昨秋スタートさせたマンガ・アニメクリエイターの育成プロジェクト「熊本こうし響創塾」の作品発表会「キャラクタードラフト会議」を3月30日に開いた。

塾生の作品を地元商工会や企業に見てもらい、企業キャラクターや商品のブランドマークに使いたい作品に投票してもらった。高校生から社会人まで20人の塾生が、合志市が市のイメージとする「太陽」をテーマにしたキャラクターを発表。企業関係者など約40人が参加した。

同市は「響創塾の開始以降、東京のプロ作家からも問い合わせが増加。アニメ・マンガを制作できる環境づくりを進めたい」と話している。



▲「ドラフト会議」での投票総数25票中、最多の8票を獲得した下条直美さんの作品「たいようさん」

女性対象の事業支援ネットワークを発足

くまもと森都心プラザビジネス支援センター

くまもと森都心プラザビジネス支援センター（熊本市西区春日1丁目）は4月1日、「女性のための事業支援ネットワーク」を発足した。

女性経営者や女性創業予定者などが気軽に利用できる相談窓口の開設およびワンストップ支援態勢の確立、専門家相互の情報交換や研鑽の場の提供などが目的。月1回程度のミーティングや勉強会、具体的な案件の検討、相談会などを開催。地元金融機関や認定支援機関などの各種支援機関とのほ



▲同ネットワークと連携を図る、熊本女性士業ネットワークの女性専門家

現役医師の緊急レポート

「ガンに克つ！驚異のプロボリス療法」

協賛 医学博士 村上信行先生

一人の医師が、抗ガン剤では効果が期待しにくい固形ガンに対して、高い抗ガン作用を示す「プロボリス」に着目。学会でも発表されたその優れた効能を1冊のレポートにまとめました。今回は限定50冊を無料進呈。お申込みはお早めに。

現在、日本ではガンで毎年約30万人の方が亡くなっており、その数は今も増加傾向にあります。しかし、西洋医学によるガン治療には、副作用や患者の心のケアの問題を含め、まだまだ多くの課題が残されているのも事実。

よりよく、より長く、人が人としての尊厳を保ちながら生きるために何ができるのか。西洋医学の欠点と限界を補う治療法はないのか。

〒1860004
東京都国立市中1-10-8
ノア国立ビル3F
TEL 0425743732
受付8時半～20時月～土
http://www.self-csc.jp/

試行錯誤を重ねた一人の医師が、抗ガン剤では効果が期待しにくい固形ガンに対して、高い抗ガン作用を示す「プロボリス」に着目。学会でも発表されたその優れた効能を1冊のレポートにまとめました。今回は限定50冊を無料進呈。お申込みはお早めに。

■お申込みは電話：ハガキにて

セルフケア情報研究センター「F755」係宛
〒1860004
東京都国立市中1-10-8
ノア国立ビル3F
TEL 0425743732
受付8時半～20時月～土
http://www.self-csc.jp/

50冊限定

“温泉塩”を地域活性化の起爆剤に



▲不知火海を一望できる絶好のロケーションに整備された「塩むすび館」



▲落成式でお披露目された温泉塩「岬の御塩」や塩飴、塩あずきゼラートなどの加工品



▲平釜で塩づくりを実演。温泉塩は口当たりがよく、海水塩よりカルシウムが豊富という

芦北町が御立岬公園内で整備を進めていた製塩体験施設「塩（えん）むすび館」が4月2日にオープンした。

「潮湯」で親しまれている御立岬温泉の温泉水を活用して500円から塩づくりが体験できる。昔ながらの塩田を再現したビニールハウスや、約250リットルと約50リットルの釜計3基を設けた木造平屋建ての釜屋を整備。また、隣接する御立岬温泉センターのボイラー排熱を利用して温泉水を濃縮させる作業を行うなど、環境にも配慮した製法だ。

4月2日の落成式で竹崎一成・芦北町長は「不知火海が望める眺望の中で本格的な塩づくりが体験できる。御立岬温泉センターとの相乗効果により、交流人口の増加を目指したい」と期待を込めた。

同施設の開業を機に、温泉塩の特産品化や塩飴、塩菓子といった加工品の商品開発や販売促進も目指すという同町。人口減少、過疎化が進む同町で生まれた「白い火薬」は果たして地域活性化の起爆剤となるか。同町の挑戦は始まったばかりだ。

コミュニケーション講座

魅力ある人間力アップに向けて（第22回）

人は、ひとりでは生きて行けません。さまざまな形で支えあって生きています。それぞれが持つエネルギーを見つけ、見守り、引き出す。コミュニケーションは、人と人をつなぐ原点ともいえます。家庭、職場、近所付き合い、友人との付き合い、その全てがコミュニケーションであり、人生を楽しむこと、エネルギーアップにもつながります。ここではさまざまなコミュニケーションのとり方についてアドバイスします。

今月のテーマ

「職場のコミュニケーション」

コミュニケーションアドバイザー 津川 育子

社会生活を営む人間が互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと。言語・文字・身振りなどを媒介として行われる。コミュニケーションという言葉を使っても、こんな風に書かれています。

今回は、仕事場におけるコミュニケーションについて考えていきましょう。会社内で生じる、さまざまな問題の根源が、コミュニケーションの軋轢（あつれき）によるものだと思うことはありませんか？ 会社でよくあるミスコミュニケーションに、「強引さ」と「抑圧」というものがあります。職場だからこそ、相手の考えを引き出し、さらに自分の意見を交えながら話し合うことで、自分にも相手にも、「考える」機会を作る事が大切です。

互いの意見をただ受け入れ合ったり、批判し合ったりするだけでは、コミュニケーションとして十分とは言えません。相違する価値観をぶつけ合い、自分の意見に対して反対の意見が出て、互いの想いを伝えあい、調整していくことがコミュニケーションということであり、それを行う調整能力のこととを、コミュニケーションスキルと呼ぶのです。

上司から部下に対してのコミュニケーションの在り方は、大きく分けて次の三つになるはずですが、これは、相手の価値観を抑圧し、理



（筆者プロフィール）「コミュニケーションアドバイザー」大学卒業後、ニチイ学館近代経営研究所などの勤務を経て平成10年10月人財育成サポートを設立。22年2月に法人化。子育て・親子のコミュニケーションの勉強会・講座を随時開講。熊本県民力レジン主催講座サテライト教室子育て応援講座などの講師も勤めている。県内各地での講演も多数。美里町教育委員。子どもは3人。著書として「愛の小箱」(夫の闘病と家族模様)がある。

【問い合わせ】
☎096-342-9733
tsugawa@jinzai-ikusei.jp